

# チェルノブイリ通信

2003年8月27日

No. 57

発行 チェルノブイリ支援運動・九州 事務局

連絡先 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内  
TEL・FAX 093-203-5282

E-mail jimmu@cher9.to

URL <http://www.cher9.to/>

ホームページがリニューアルされました!! 是非ご覧下さい

郵便振込口座 01770-1-65328 チェルノブイリ支援運動・九州

プレスト要塞の中にある教会の祭壇のひとつ。ろうそくの炎が絶やされることはない



\* 第3回プレスト移動検診  
津島さんからの報告

\* 帰国報告会のご案内

\* はじめてのベラルーシ 吉本さんのレポート

\* プレスト市保険局長パニコ氏による講演

\* ベラルーシプレストの悪性腫瘍一般について

\* 雪だるま2号キャンペーン  
リードオルガンと絵本のコラボレーション

\* 講談「チェルノブイリの祈り」終えて  
山中陽子さんからの報告

\* 映画「アレクセイと泉」のブジシチェ村を訪ねて  
鎌野保雄さんからの報告

# ブレスト 第3回検診報告

7年間の検診活動を通じて達成されたこと、そして、これから必要なこと

文・写真 津島 朋憲 (チェルノブイリ支援運動九州) 運営委員長



患者の甲状腺検診を行う高津医師

2003年7月 ブレストにて

ブレスト第三回検診は7月25日から3日間、週末にかけて行われました。

日本側参加者は、日本医大から江本助教、高津医師、渡會検査技師と、医学生のアタデイツァーとして高橋さん、運営委員として、津島、吉本でした。現地参加者は、ロマノフスキー氏(ベラルーシ赤十字

総裁)、アルツール医師、グリゴロビッチ・スタニスラフ・マトベービッチ医師、マリナ・グリゴロビッチ医師、ウラジミール医師、リュドミラ・ウクラインカでした。検診に参加しなかったものの、現地で検診に協力して頂いたり、今後のことについて話し合ったりしたのは、パニコ医師(ブレスト保健局長)、ラリサ・タニーロバ医師(医学再教育センター教授)などです。

繰り返しお知らせしているように、支援運動・九州の最大の特徴は、「日本の医師を伴って、医学的に見てもしっかりした現地医療支援をしている世界でも数少ない団体」という点にあり、ここ7年間の活動の根幹を成していたのがこの検診です。

日本で現地に医師を派遣しているのは数団体、フランス、ドイツを含めても数多くありません。様々な意味で現地の医学的発展という貢献をもしている団体となると、

本当に数えられるほどであると現地からは聞いています。

今回の検診時期は、本来、現地の夏の休暇シーズンでした。そうしたシーズンでなくてもほとんどすべての人が仕事をしなくなってしまう週末に検診の日程を予定したことは、ブレスト州立病院にいるアルツール医師らの熱意を感じさせます。

検診は年々スムーズになってきました。ストーリーン地区病院時代と比べると、その差は歴然です。部屋を一部屋にまとめてもらうことで、問診・触診 エコー 吸引穿刺の作業の流れがうまくいくようになりま。染色も隣の部屋で行い、さらに出来上がったプレパラートをも隣接する部屋で顕微鏡で細胞診を行えるようになっていきます。

こうした一連の検診の流れがうまくいくようになったのは、ストーリーン地区病院時代を含め、七年をかけての成果と言えます。

この間、赤十字のマスクーリングに参加していたアルツール医師が自発的にストーリーン地区病院の検診に参加してくれ、本来ならば専門外であった吸引穿刺を覚え、さらには広島に勉強に来ることで染色・細胞診も覚えていったことが一番の原動力になりました。

習慣や社会システムなどの勝手が分からない現地で、日本を含め世界中の多くのN

700年前からあるプレストの要塞塔前での検診団のヒトコマ。左上から、アントン・ロマノフスキーベラルーシ赤十字代表、左下・高津医師、吉本事務員、プレスト保健局長婦人、渡會検査技師、パニコプレスト保健局長、高橋日本医大生徒



問診票



細胞診を行うマリナ・グリゴロビッチ医師

GOが、信頼に足る活動のパートナーを得ることに苦勞している昨今、彼のようなパートナーと連帯するための苦難の時期がストーリーリン地区病院の検診だったとすれば、今のプレスト病院での検診がより輝いて見えます。

ここ二回の検診で、専門家の口から「予想外の大きな苦勞をしなかった」という言葉が聞かれるようになったことは、バイオニア的な視点で見れば少し物足りなさを感じるものの、遅々として成果を実感できなかった過去を振り返ってその成果を確認する時には、大きな達成感があります。

アントン・ロマノフスキー赤十字総裁からも、「赤十字の支援でマススクリーニングを行った地域はプレストの他にもあるが、プレストがもっともうまくしている。これは支援運動・九州の成果である」と、プレスト保健局長を交えた会議で言われました。

日本とは医療事情も医療システムも違う現地で、ついに我々はひとつの支援を達成した実感を得るところに辿り着いたのだと評価して良いと思います。

検診の現場を離れて、現地社会システムに対する成果としては、「赤十字マススクリーニング」「移動検診」「早期診断」「患者輸送」「術後の調査」までを含め

た一連の流れが概ね確立しつつあると言えます。

次の支援内容としてプレスト保健局で提案があったのは、長期低線量被爆との関連が指摘されている、肺ガン、乳ガン検診でした。また、別の調査では、手術時の輸血用血液の一部が先進国では考えられないほどウイルス性肝炎に冒されている（1〜2割程度）という報告もあり、旧原発労働者（リクビタートル）の諸問題もあります。

これまでの成果と、現地とのきめ細かな連携の出来る現在の状態を有効に活用しながら、面接を主体とする調査を軸にした支援内容はまだまだたくさんあるといった印象を持ちました。

我々の検診の事後調査のため、ストーリーリン地区からの患者さんと呼んでいただけでなくお願いしていたのですが、お願いが良く伝わっていませんでした。我々の検診を受けたことがない患者さんばかりで、事後調査のための面接調査は出来ませんでした。

### ミンスクにて

結果的には事なきを得たのですが、保健局から発行された今回の招待状に通訳2名の名前が入っていませんでした。



プレスト要塞にある教会と、独ソ戦の火蓋を切った  
プレスト要塞のチタニウムの慰霊碑

外国人料金をホテルから請求されました。請求されてわかったことですが、普通の日本人旅行者であれば我々の価格の4倍を請求されるのです。

こういう事務上のトラブルも、現地のパートナーとの連携がしっかりしているため、結果的にはスムーズに進むのが嬉しかったです。

現地の政治的環境は、比較的悪くないつつあります。以前から協力関係にある現地NGOの「コンフィデンス」からも聞いたのですが、今では海外からの活動助成金に50%の税金がかかるそうです。支援に関しても物資の管理な

どが年々厳しくなり、各病院への支援物資の受け取りのサインを、病院長自らが行うことはなくなりました。別に支援を受け取るための部課が設置されており、挨拶の後はその間に回されます。

以前は基幹病院の管理職であればサインしてくれることが多かったのに比べると、格段に厳しくなった感があります。

これら物資の流れをより正確にするという目的の延長で、支援そのものについても支援内容を詳しく記した文書の取り交わしを必要とするようになりつつあるようです。近々、その原案が送られてくることになっています。

他方、経済面では、一気に西欧化しつつあるといった印象を受けました。筆者が最後に訪れたのは3年前ですが、目に見えて車の数が増え、携帯電話を持っていく人の数も増えました。

ただし、発展してきたといっても外貨で買うものはまだまだ手に入りにくく、医学雑誌、検査試薬などを中心として、手術の実地的な方法の指導、継続的な薬の支援、現地の医療レベル向上のための諸々の無形の支援も、不十分な状態です。

このほか、ついに雪だるま号が既に動かなくなっており、廃車以外の選択肢がないことが知らされました。このため、ベラルーシ赤十字では雪だるま号の廃車許可証にサインをしました。検診の成果の確認を含めて、ひとつの時代の見送りをした感じがしました。

また、1番病院院長ミチクは「小児甲状腺ガンとは認められなくなったものの、事故当時0〜18歳であった人たちのグループでは未だに甲状腺ガンが増加している」とのことでした。ただし、検査方法の違いから発見できなかったため、この中には事故以前の統計に含まれていなかった微小ガンへ小さなガンで一生悪影響をもたらさずに共

存するもの（なども含まれており、本当の意味で増加しているかどうかという結論はもう少し詳細な疫学的データの収集と処理が必要なようです。

### ゴメリにて

市民第2病院の外科では、外科手術セットの受け渡しと病院見学をしました。病院が集合している地域にあり、以前はコンビナートの病院だったようですが、今は市民病院になっています。

各国の支援機材で成り立っている透析病棟、集中治療室などを見学しました。作業所「のぞみ21」では、約1000

ドル分の民芸品を購入しました。ここで購入するマトリョーシカは、マトリョーシカ収集家の間でも人気が高く、すぐに売り切れてしまいます。このほか、キーホルダー、日本ではまずお目にかかれないようなかわいらしい子供服、テーブルクロスなどを購入しました。

買い付けは、売れ筋がだんだん把握できるようになりつつあり、よく売れるものは出来るだけ多く仕入れるようにしていますが、売り切れることも多々ありますのでお早めにご購入ください。作業所の支援に関しては現地の



かつて検診をしていたストーリン地区からプレスト州立病院に検診に来た少年。首筋に吸引尖刺の処置跡がある。

自立支援というNGOの大的目的に対して非常に有効な活動になっていきます。作業所の運営自身は、市場での販売を含めても極めて苦しく、数値上は良くと倒産していかないという印象を受けました。各種の助成金も今は受けられていないとのことで大変そうでした。販売金額が拡大できるのであれば、より大量の買い付けを行うことも視野に入りたいなと感じました。

また、作業所にもファックスが備わったので、売れ筋の商品の重点注文など、様々なきめ細かな対応が出来るかと思えます。今回はシルクのカーフを試作してもらおうことになりました。

今回検診参加としては初めて、しっかりしたフィルム、しっかりしたカメラを持って行って撮影しました。この会報の表紙の写真を含めて、現地の様々な場所の風景もあり、検診報告としては出色の写真群になっていると思います。これらの写真は報告会、ホームページ、報告写真集などで紹介していきたいと思えますので、是非ともご覧になってください。パネル貸出もありません。



触診をする江本医師

## チェルノブイリ支援運動・九州 ベラルーシにおける医療支援活動 報告会

7月下旬に行われたベラルーシ・プレスト州における第3回検診を終えて、派遣団メンバーが報告会を開きます。17年経っても終わらないチェルノブイリと、チェルノブイリ支援運動・九州のこれまでの医療支援活動、ベラルーシ共和国の現状についてお伝えします。

関心を持って下さる方へ、気軽に手軽にできる活動参加の案内もします。皆様のお越しをお待ちしています。

日時 ◇9月7日(日) 15:00~17:00

場所 ◇福岡市人権啓発センター(ココロセンター)  
福岡市博多区下川端町3番1号博多リバレイン・リバーサイト10F  
TEL:092-262-8464 FAX:092-262-8463

内容 ○1990年より医療支援を始めて、これまでの経緯 ○プレスト第3回検診を終えて、現在の状況  
○今後の展望 ○活動参加者募集のお知らせ

報告者 ・津島朋憲(チェルノブイリ支援運動・九州 運営委員長)  
・吉本美貴(チェルノブイリ支援運動・九州 事務局)

参加費 ◇一般500円 学生300円

物販 ◇ベラルーシの福祉工房「のぞみ21」の民芸品チェルノブイリ支援コーヒー(オーガニック)

問い合わせ ◇チェルノブイリ支援運動・九州まで ※お申し込みは不要です。

# ナターシャさんとの出会い はじめてのペラルーシで

報告／吉本 美貴 (チェルノブイリ支援運動・九州 事務局)



ナターシャさんと吉本さん

ナターシャさんのことを思い出すと、今でも涙が出そうになります。そして少し元気になります。次はもっと強くて清々しい笑顔で会いに行きたいです。

今回のプレスト第3回医療検診・調査団に、事務局から私が参加させて頂きました。

映画『ナージャの村』や『アレクセイと泉』の中で、ペラルーシの心のきれいな人々や美しい景色を観て以来、ずっと行ってみたいと思っていたので、参加が決定した時は嬉しくて単純に喜んでいました。

しかし出発の日が近づくにつれて、私の心の中にある葛藤<sup>かつどう</sup>が次第に大きくなり、実際に被害を受けた土地に行き、そこに住む人々に会う役目は、私にはふさわしくないのではと感じ始めました。

その葛藤はどのようなものかと言つと…。

そもそも私がチェルノブイリ支援運動・九州に関わるようになったのは、人の役に立ちたいという想いがきっかけなのですが、これは、以前から私の中にある「何のために生きているのだろうか」、「私みたいな人間が生きていてもいいのだろうか」という問いに対する答えというか、その問いから逃げる術<sup>すべ</sup>だつたように思えます。

友人が「人のためと書いて『偽』だ」と言っていました。まさしくその通りで、私のしていることは偽善に他なりません。被災者支援と言いつつ、自分自身が生きていく価値や許可を得るため、自己満足のためにしているのです。

なんだか申し訳ない気持ちになり、そのストレスから体調もくずしてしまい、出発前日は熱を出してしまうほどに自分を追い込んでいました。そして、現地の人々にどのような顔をして会ったらいいいのか、何を見て来たらいいのか分からないままに日本をあとにしました。

ペラルーシでは、想像していた以上に大きな自然が待つていました。車道の両脇にはどこまでも続く大地が広がり、牛や馬などの動物も当たり前のようにいました。向日葵<sup>ひまわり</sup>もたくさん咲いていて、車窓から流れる景色を見ているだけで心が軽くなるような気分でした。人々もみんな、こんな私を快く迎え入れてくれました。

今回の訪問の中でも特に印象に残っているのは

工房「のぞみ21」です。ステファン、ナターシャ夫妻は、とびきりの笑顔と温かい手料理で私をもてなしてくれました。

ナターシャさんに「新しくスカーフを作ってみてはいかがですか」と提案したところ、シルクに模様を描く伝統的な方法があつて、息子のオレグさんが生前によくその方法で絵を描いていたことを話してくれました。そして、オレグさんは日本に行きたかつたのに実現する前に亡くなつてしまったこと、オレグさんのお姉さんは絵を描くのが嫌いなのに妊娠中だけオレグさんの道具を使って描いていたこと、産まれてきた赤ちゃんは何故かオレグさんに似ていることを話してくれました。

原発事故によって自分の子どもを失うという、とても計り知れない辛い出来事を、初対面の私に語ってくれました。壁にはオレグさんの写真と千羽鶴が掛けられていました。胸がいっぱいになって、私は何と返事をしていたのかわかりませんでした。

辛い記憶から逃げずに、現実を受け止めて一生懸命に生きているナターシャさんは強くて、それでいてキュートで、とても魅力的でした。ナターシャさんに会って、彼女の生き方を考えると、私の中の葛藤が少しずつ消えていく感じがします。

# ベラルーシ・ブレスト州における悪性腫瘍一般について



ベラルーシ共和国ブレスト市保健局長  
パニコ・セルゲイ・ウラジミロビッチさん（右側）

チェルノブイリ支援運動・九州が現在、甲状腺がんの検診を行っているブレスト州、ブレスト市の保険局長のパニコ・セルゲイ・ウラジミロビッチさん（40）が、研修のため来日。チェルノブイリ原発事故から17年が過ぎてもなお被害に苦しむ現地の状況について報告を行い、甲状腺がんや白血病患者の増加について説明し、早期の診断、治療の重要性を訴えた。

## 悪性腫瘍をめぐる

### ブレスト州の現状

現在チェルノブイリ事故から17年が過ぎ、わが国でも非常にこの問題にたいする興味が増える中で、私の研修地である広島で講演できることを、感謝したいと思います。ブレスト州におけるチェルノブイリに関する情報が発表されるのは、おそらく日本で初めてのことだと思いますので、順を追って、悪性腫瘍一般からお話し致します。1982年に2601名だった悪性腫瘍の患者さんが2002年までに4492人まで増えました。

このうち一番多いのは、以前は胃がん、2番目が肺がん、3番目が子宮がん、4番目は女性の乳がんでしたが、チェルノブイリ原発事故後は、肺がんが多く占めるようになりました。2番目が胃がん、皮膚がんという順序になっています。女性の場合、事故後においては、乳がんが1番多く、2番目が皮膚がん。3番目が胃がん、4番目が子宮大部のがんとなっています。

## 思春期における

### 甲状腺がんの問題

15歳以上の思春期においては、第1位が

甲状腺がんです。2番目は血液疾患。これは白血病を中心とした血液疾患です。

おもにブレスト州のストーリン地区、ルニエフスキー地区、ピンスク地区という3つの汚染地区がありますが、ここでの悪性腫瘍の疾病率というものはベラルーシ全体、あるいはブレスト州全体と比べてもそんなに高くありませんでした。

### 甲状腺がんの動向

次にお見せするのが、甲状腺がんの動向です。1965年から1972年までの事故以前は、0.5〜0.8の疾病率で、1973年は1.0、1982年、1983年は1.3という疾病率の数値です。

1993年からブレスト州においてこの疾病率が上がります。

現在、悪性腫瘍病院において1022人が甲状腺がん患者として登録されており、そのうち14歳までの小児がんが6人、そして思春期の15歳から17歳までの患者が87人登録されております。

現在、ストーリン地区において甲状腺がんの発生率が非常に高くなっております。

結論として、ブレスト州におけるルミネフスキー地区、ストーリン地区、ピンスク地区、ドルテンスキー地区、この4つの地域が現在甲状腺がんが多く認められるよ

うになっているということになります。

## チェルノブイリ原発事故が

### 残した放射能の被害

ご存知のようにあの人類史上最大の核事故、チェルノブイリ原発事故が1986年4月26日に起きまして、この放射能各種の汚染は広島、長崎の原爆より100倍以上もの放射能汚染となりました。

このチェルノブイリ原発はウクライナのベラルーシと国境を接するところでありましたが放出された放射能の70%がベラルーシに降り注ぎました。セシウム、ストロンチウム、プルトニウムは4万6000平方キロメートルの我が国の領土を汚染し、その汚染地域に約220万の人々が住んでおります。

我々のプレスト州にはストーリーリン地区、ルネツキー地区、ピンスク地区の3つの汚染地域があります。17万1200人住んでおり、そのうちの子どもの数は3万7800人で、思春期の患者の数は7600人という数が上がっております。

ベラルーシ国内の放射能汚染地図によれば、国内のほとんどの地域が汚染

されていることが分かります。

こうした情報が事故当初は政府からも公式な情報として知らされることもなく予防措置もまったく取られることもありませんでした。

特にプレスト州においては事故当時から非汚染地域と言われており、汚染情報はまったく知らされることなく、検診や人道的支援もまったく受けることがありませんでした。

### 現地で必要とされる

#### 甲状腺の検診活動

その地域において内分泌、特に甲状腺疾患に関しての医療サービスに、1990年から我々は努力してきました。特に汚染地域であるルミネフスキーそしてストーリーリン地区において、内分泌の専門家なども37名から87名に増やし、病棟も17から31に増やして我々の対策にあたってきました。

特にプレストそしてバラノピッチという地域に、医療検診チームを派遣し、約12万人に設定していた甲状腺の検診対象者を24万人に増やしてこの対策にあたりました。

この地域において、地方性甲状腺腫、結節性の疾患、甲状腺炎、甲状腺機能

低下症を中心に検診を進めていきました。例えば甲状腺疾患の中でも慢性甲状腺腫が1990年には人口あたり10万にたいして66人であったのが1998年には約10倍の688人に増えてきました。それ以後、2000年から人口10万人に対して400人というのが慢性甲状腺腫の疾病率です。

結節性の甲状腺腫というのは、事故前10万人に対して34人であったのが、139人に増えております。

とくに結節性の疾患に関する診断には超音波診断装置が非常に役にたっております。1990年から2000年の間にエコー診断装置約50台が人道的支援により届けられております。そういう人道的支援の中にはドイツ、日本からのエコー診断装置がありました。

そしてこの10年間において、小児、思春期、成人など約35万9700人にエコーによる検診を行っていました。

この他に結節性の甲状腺腫また事故免疫性の甲状腺腫等も増えております。事故免疫性疾患に関しては、放射能の影響等でこういう疾患が増えているのではないかとということを心配しております。

ピンスクの甲状腺悪性腫瘍研究所の

デミチク所長の発表によると17年間で

9526名の甲状腺ガン手術が行われており、そのうちの728人が小児であり、15歳から17歳までの思春期が424人。そして、18歳から35歳までの数が856人。計1998人となっております。

1998年のうちの184人が手術した結果、すでに肺に転移をし、そして1998年のうち19人が死亡されました。

1997年10月にプレストの内分泌診療所に、国際赤十字連盟から検診車が送られました。この検診車を使ってまず超音波エコーによるスクリーニングをやっております。それをおもにリスクグループにやっております。

そしてこの我々の医療検診チームによつて8万4000の人たちを検診しました。そのうち甲状腺疾患と認められる人たちは2万5405人いました。そのうちの203人が甲状腺ガンでした。

そして2001年から我々は吸引穿刺による診断等を使って検診を行っております。

この吸引穿刺が現地に広がったとい



うのは、チェルノブイリ支援運動・九州による検診活動において、武市先生ら日本の医師のご指導があつて、現地で吸引穿刺の手法が、広がつております。

## プレスト州における

### 血液疾患の問題

次にプレスト州における血液疾患についてお伝えします。

1979年から1999年までの21年間に、ベラルーシ共和国では3万2472人の血液疾患がありました。

これを3つの期間に分けます。まず1979年から1985年までの期間。次が1986年から1992年までの事故後7年間。3番目の時期が1993年から1999年までです。

第1期の期間つまりチェルノブイリ原発事故が起きる前までの間に約8721名の血液疾患が認められました。1986年から1992年までの事故後の7年間においては、成人における1万1415人に血液疾患があり、この全体の中では35・1%の成人に血液疾患が認められます。

1993年から1999年においては1万2336名の血液疾患の人たちが疾病しました。

そして成人の3万2472名のうち1万7326人、つまり全血液疾患のうち53・3%が白血病でした。

そして4900人の人たちが急性白血病で、また1万2425名が慢性の白血病でした。

0歳から14歳までの3007人の状況を見ますと、1898人が白血病でした。1898人のうちの1833人が急性の白血病患者で、そして残りの65名が慢性の白血病でした。

チェルノブイリ原発事故前、つまり第1期の期間に急性白血病になった子どもさんたちというのは636人でありました。第2期、つまりチェルノブイリ原発事故以降、白血病になられた患者さんは675人でありました。そして第3期におけることもさんは522人が白血病にかかりました。血液疾患のなかでの構成は次のようになっています。2884人のうちの1509人が白血病と診断され、そして多発性骨髄腫が272人そしてホジキン病が529人。こつこつ数字になつております。

これはもつとも汚染された地域における白血病のタイプですが、それには慢性の白血病が1017人となつてお

ります。

276人の小児の患者さんのうち182人が白血病になつております。そしてホジキン病40人。それはパーセントでいうと14・5%になつています。

汚染地域に発生した小児白血病の患者数が182人いますけど、そのうちの170人が急性白血病で、慢性の白血病が12人という割合になつております。

したがつてこの結論から言えることは原発事故後の1986年から1992年において、以上のような血液疾患が増えているということが言えます。

我々の情報の結果から言えることは急性そして慢性の白血病というものは男性に多く、それは農村部の男性に多いという結論がでております。

そして、小児の血液疾患において、特に白血病に関しては、急性白血病が見られ、それは男の子に多く、また都市部の男の子たちに多いという結論が血液輸血研究所のデータとしてでています。

生涯40年のうち初めて日本に来て初めての講義だったので色んな情報をみなさまにお伝えしたくて少し長くなつたと思ひます。

ご清聴ありがとうございました。

## 雪だるま2号をベラルーシに贈ろう！ あなたにできる方法で、ぜひご協力をお願いします

### \*デザインセンスが命を救う！ デザイン募金箱大募集

既存の募金箱にとらわれない個性的なオブジェ募金箱ができれば、写真を送ってください。

### \*募金箱をあなたの職場や学校、近所の公民館などにぜひ置いてください。

置かせてもらえそうな場所が見つかったら、事務局までご連絡下さい。

### \*雪だるま2号チームメンバー（ボランティアスタッフ）になってください。

今、こんなことを企画中！

★チャリティーヘアカット…理容師さん、美容師さんに協力してもらって1日ヘアサロン「スネガビク（ロシア語で雪だるま）」をオープン！ カット料金が雪だるま2号カンパになります。

★募金箱あちこち作戦…空きビンやペットボトルが個性豊かな募金箱に大変身！

★パブクローリング…即席ちんどん隊が街に出現！ 食堂や飲み屋さんで芸を披露し、主旨をお話して、お客さんからカンパをちょうだいします。



「雪だるま2号」キャンペーン企画

# チェルノブイリのたんぽぽ ～足踏みオルガンと絵本とわたし～



リードオルガンの優しい風と音色で、絵本に描かれた世界もぐっと想像が広がるのではないのでしょうか。どこかが悲しいけれどそれでも優しく、そして心が暖かくなる、そんな時間と空間を作りたいと思っています。

リードオルガンが奏でるクラシックからロシア民謡まで、どうぞご期待ください！

## 内容

- ・福田のぞみさん リードオルガンコンサート
- ・小野正法さんの絵本「チェルノブイリのたんぽぽ」とリードオルガンのコラボレーション
- ・折尾愛真ハンドベルクワイアによるハンドベル演奏
- ・チェルノブイリ支援運動・九州の報告
- ・ベラルーシのお菓子和オーガニックコーヒー、ハニーウオッカなどの販売
- ・ベラルーシの手工芸やチェルノブイリに関する書籍の販売



リードオルガン 福田 のぞみ

北九州市在住。洗足学園大学音楽学部パイプオルガン専攻卒業。北九州市教育委員会及び(株)北九州市芸術文化振興財団によるファミリーパイプオルガンコンサートに出演。西南女学院短大、北九州聖楽研究会オルガニスト。

絵本の朗読 小野 正法

1978年生まれ。宗像市在住。

絵本作家。絵本の創作活動とともに、幼稚園や病院などで自作絵本の読み聞かせを行なっている。



特別ゲスト 折尾愛真ハンドベルクワイア

旧折尾女子学園ハンドベルクワイア。フェスティバルや定期演奏会のほか、教会や老人ホーム、小中学校の施設などで演奏を行っている。

日時 2003年9月12日(金)  
午後6時開場 6時半開演 8時半終了

場所 日本キリスト教団 八幡鉄町教会  
北九州市八幡東区末広町4番15号  
TEL/FAX : 093 - 681 - 5812



詳しくはチェルノブイリ支援運動  
・九州事務局までお問い合わせください。

入場料 前売/事前申込 一般 1500円 大学生 800円 中高生 500円  
当日 1700円 1000円 500円

申込み チェルノブイリ支援運動・九州 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16 ウインドファーム内 TEL/FAX : 093-203-5282  
後援: 日本リードオルガン協会、北九州市、北九州市教育委員会、北九州国際交流協会、グリーンコープ福岡・北九州  
賛同: (株)ウインドファーム、チェルノブイリ友の会、たんぽぽとりで、NGO福岡ネットワーク

☆このイベントの収益は、チェルノブイリ事故被災者医療支援のための検診者「雪だるま2号」購入にあてられます。

# チェルノブイリの祈り — 未来の物語 —

神田香織講談を終えて 報告／山中 陽子（たんぼぼとりで）



去る7月4日、福岡市唐人町甘棠館SHOW劇場での神田香織講談「チェルノブイリの祈り—未来の物語」が行われ、1000人近い観客がその迫力に引き込まれた。池田智鏡筑前琵琶によるレクイエムは1000人近いお客様を迎え、感動のうちに終えることができました。ご協力下さったみなさん、ありがとうございます。

（報告 たんぼぼとりで 山中陽子）

この春「神田香織さんの講談を聞かないか」という誘いがありました。

「講談？ なんだったつけ？」

名前は聞いたことがあるけれど「これが、わたしたちと「神田香織講談」の出会いでした。」

日本の伝統文化が大好きで、なごなたをたしなむK女は早くから乗り気でしたが、他は「コーダン？」「ああ、あれ？ ほら、時は元禄15年、雪を蹴だてて、サクサクサクとか言う？」「遠い昔の赤穂浪士の世界と、1986年のチェルノブイリとが、いったいどこでどうつながるの？」と戸惑い気味。

しゅん巡を一変させたのは東京在住の会員の、「神田香織さんの『はだしのげん』を子ども劇場でみたけれど、終わっても立てないほどだったよ」と絶賛するひとことでした。

こうして、「チェルノブイリの祈りを上演する会」が立ち上がりました。はじめてのミーティングで神田さんの講談のビデオを観て、「人間の語りの迫力」に引き込まれた後は、「生で見たい！」「一念で突っ走るようになります。」

チェルノブイリについては、事故後17年、テレビや新聞のいろんな企画で見聞きしてきました。でも、それは断片的な知識の積み重ね、一瞬一瞬の誰かの出来事であり、思えば、チェルノブイリに生きたひとりの人間の人生を通して、現地の人になりきってみたことはありません。人生は長い時間歩くもの。「チェルノブイリの祈り 未来の物語」は、若い消防士夫妻がああ時どんなふうにし、生きたのか、その軌跡を追体験させてくれるものでした。

お涙ちようだいではなく、トルストイや「イワンの馬鹿」で馴染んだあのロシア女性の底抜けの明るさと力強さを持つ人懐っこくて物おじしないリユーダ。

モスクワには何度か来たことのある夫ワーシヤは、この花火大会をかねてからリユーダにも見せたいと思っていました。許容量をはるかに超えた放射能を浴び、手の施しようもないままモスクワの病院に送られ、日に日に死に近づいているのに、リユーダに花火を見せようと気にかけるワーシヤの優しさ。

もう見えない瞳で共に花火を見ているワーシヤ。事故後のふたりの時間はわずかに10日間でした。環境問題に敏感な人でも、原発には疑問を持たない傾向があります。「なくてはならない」「清潔な」電気と「悪い」放射能のイメージとは相いれないのかもしれない。死の灰を増やし続ける原発で快適な生活を営み、戦争がゲーム感覚で行われる現在を後世の人は「巨大技術時代」と呼ぶようになるのでしょうか。

再び、人間のサイズで生きるようになつていのでしょうか。

「アレクセイと泉」のなかにこんな場面がありました。泉の最後の修復を終えて、ひとりの老人が語ります。「始めることだ、始めたらきつとつましくいく。いま、この言葉を噛みしめることができ幸せです。来て下さったみなさん、サポートしてくれた友人たち、上演する会の仲間たち（Hello Ms of KODAN）、鎮魂の筑前琵琶の池田智鏡さん、渾身の講談の神田香織さん、本当にありがとうございます。」

## 講談「チエルノブイリの祈り」を観ての感想

○初めて琵琶、講談を聞きました。大変感動いたしました。再度、仲間を募って呼んで見せたいと思っております。特に講談は、今後、小学生、中学生に見せてやりたいと思っています。

○東海村の事故もあつたばかりなのに、なぜ私たちはこんな危険なものを止めようと思わないのだろうか。科学はそんなにも信頼できるのか。私たちは大きな犠牲を出してもまだ、それから学ぼうとせず、想像力も封印してしまうことを続けるのだろうか。「講談」を初めて体験しましたが、震えるほど感動しました。未来のことを伝える力を強く感じました。スタッフのみなさん、ありがとうございました。○神田さんの伝えなければという情熱と共にある講談、その場、確かに未来に対するイメージが大切ですね。○あらためて私自身も風下の間だと実感しました。○講談のイメージというか、もっと講談調べたいものがあるのかと思つたので予想とは違つたけれど、おもしろかつた。最後の「未来のニュース」は、蛇足っぽくないかな。言いたいことはわかるけれど。○琵琶とともに語りの源流にも触れて演じられ、大変良かったです。講談の新作を生で見るのは初めてで、伝える技法の数々も語り口の

変化、音響とのかねあいも見物でした。○現実なんだと思うとつらい。○何ができるのかを考えさせられた。○筑前琵琶の演奏の素敵だったこと、優しい音色にうつとり。語られる身のすさまじさを包み込んでしまつていて何とも言いがたし。香織女史の語りのうまさにさらに感激。胸打つストーリー、その分かりやすさ、聴衆の心理をつかんで話さぬその話しぶりはとても感動的出した。○ほんとうに原発を自分のこととして考えなければとしみじみ思つた。○今日のような講談や琵琶での語り伝えはうれしかった。大事なことをして下さつたご両人に感謝します。○腸にしみ、深く心を揺さぶられました。この祈りが未来への希望と続くのは私たちがどう生き、どう伝えるかにかかつていることを心に刻みつけられました。ありがとうございます。○世界に無法がはびこり、だんだん壊れていく恐ろしさを感じています。とても身につまされる素晴らしい公演でした。○チエルノブイリの事故のこと私たちが知ること、理解することが大事だと思います。○原作を読み胸打たれたことをすばりと効果的に演出、表現され、感動を新たにしました。

## お知らせ

「チエルノブイリの祈り」の原作者  
スヴェトラナ・アレクシエーヴィチさんが来日します。

神田香織さんの講談「チエルノブイリの祈り」の原作者、スヴェトラナ・アレクシエーヴィチさんが来日します。彼女は、国家（権力）に翻弄され犠牲にされた人びとの、悲しみと絶望を書き留めている旧ソ連出身の作家で、今の時代を語るにふさわしい人物です。日本では核や原発の問題に取り組む団体が中心となり、全国各地で講演会が予定されています。

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチさんの略歴  
○1948年5月31日生まれ。1967年国立ミンスク大学ジャーナリズム学部入学。卒業後、地区新聞、全国紙の記者として活動。「ネマン（ベラルーシの河の名）誌」のルポタージュ、社会評論部部長を経て1983年「戦争は女の顔をしていない（第二次大戦時に前線で戦つた女性たちのインタビュー集）」でライプチヒ国際ドキュメンタリー映画祭「銀の鳩賞」受賞。1996年文学における勇氣と威厳をたたえ「スウェーデン・ペンクラブ賞」受賞。2000年「20世紀の証言者賞」受賞。2001年滞在中のイタリアでアッシジ平和行進に参加。

- 10/11(土) 大阪 アビオ大阪小ホール 14:00~17:00  
大阪市中央区森ノ宮中央1-17-5(06-6941-6331)  
チエルノブイリ・ヒバクシャ救援関西 0798-44-2614
- 10/12(日) 広島 アステールプラザ大会議室B13 13:30~16:00  
広島市中区加古町4-17(082-244-8000)  
原発はごめんだヒロシマ市民の会 082-922-4850
- 10/14(火) 北海道 共和町民センターホール 18:30~  
岩内郡共和町南幌似37-22(0135-73-2826)  
北海道平和運動フォーラム 011-231-4157
- 10/15(水) 長野(松本) 18:30~松本市あがたの森文化会館  
松本市東3-1-1(0263-32-1812)  
日本チエルノブイリ連帯基金 0263-46-4218 布山
- 10/16(木) 長野(伊那) 富県ふるさと館 18:30~20:30  
伊那市富県6393-1(0265-72-2318)  
伊那谷いのちがだいじ連絡会 0265-73-6103
- 10/18(土) 愛知 今池ガスビルホール 13:30~16:00  
名古屋千種区今池1-8-8(052-732-3211)  
NPOチエルノブイリ救援・中部 神野 052-836-1073
- 10/19(日) 東京&送別会 カタログハウスセミナーホール13:30  
東京都渋谷区代々木2-12-2(03-5365-3113)  
東京講演実行委員会 神尾

映画「アレクセイと泉」の舞台 ベラルーシ共和国ブジシチェ村を訪ねて

# チェルノブイリで感じた日本の危機

(報告 鍛野 保雄「むらさきつゆくさ」より転載)



ブジシチェ村にて、アレクセイと鍛野さん

チェルノブイリ原発事故から17年、『アレクセイと泉』に引き寄せられるようにして、ベラルーシ泉ツアーに参加して来ました。この企画はJCF・日本チェルノブイリ連帯基金によるもので、本橋成一監督はじめ映画カメラマン一之瀬正史さんや、プロデューサーの神谷さだ子さんも一緒に総勢22名の7泊8日の旅でした。

この旅ではブジシチェ村はじめチェルノブイリ原発やベラルーシ共和国の埋葬された村（映画『ナージャの村』の舞台）、そしてゴメリ州立病院小児血液病棟を訪ねるなど貴重な体験をすることができました。

7月25日、ウクライナ共和国の首都キエフのホテルを後に緑多い市内を通り抜けるとバスは赤松、白樺、ポプラの森を突き抜け、地平線のどこまでも続く緑と黄色の沃野を左右に見渡しながらどこまでも直線の道を高速でひた走ること約2時間余、原発より半径10kmの立入り規制の検問所に到着。

旅のリーダーの神谷さんが通訳のイリーナさんと検問所でチェックを受けた後、バスは10kmゾーンに入る。バスの中から道路沿いのあちこちに消された村の跡を見る。建物はなく、木立の間に広がる原野はほとんど村の痕跡をとどめていない。ただ青いリンゴの実をつけた木々の茂みや、放射能危険の標識と作物のない草原を見るのみ。

やがてバスはチェルノブイリ情報

- 案内所ともいふべき建物へ、そこで美人の係員からこの10kmゾーンの説明を受けた。
- この地域は事故後、約10万人が立ち退きとなり今は住民は誰も住んではない。
- この「避難地域」で現在4千人が働いている。
- 以前、無人化した地域で森林火災があり、数万ヘクタールが消失したが森の火事は放射能を舞い上げ土壌汚染が倍増し、危険なので森林火災を防止するため。
- 原発の横を流れるプリピャチ川も汚染された。春に上流から沈降してくる放射能が拡がらぬよう、飲み水に入らないようにダムをつくり水質管理をする専門家がここに居る。
- 放射性廃棄物の埋設や、空気、土壌

のモニターリング、石棺(爆発の4号炉)の状況を見る専門家が居る。

○その他生活用品を供給するスタッフ、小さな診療所、医者、消防士、警察も居る。

○合計4千人が交替制で1月に15日間働いている。係員は「(無人化後)オカミ、キツネ、ウサギ、イノシシが増えてきた。汚染はそう高くない」と言った。

そんな説明の後、この係員の案内でバスが進む。数分後、道に沿ったところにある消防士石像の記念碑の前で降りる。その碑文には「世界を助けた人」とある。

さらに数分バスが進むと道路沿いの木立の陰に第2次大戦の戦勝記念碑があった。その木立の下を通り案内されたのは保育園の建物である。なぜか残された建物の中は当時のままに、薄暗い教室内に遊具が散乱していた。この木立の入り口あたりで広島の溝田さんが放射線強度を測ったところ、3.06マイクログシーベルトを表示した。東京は0.06だったという。この建物から早く出たいと思い、バスにもどる。バスが更に進むと、遠くにあの原発が見えてきた。またバスが停まり降り



チェルノブイリ原発の前で

と思った。働く人々にどれだけ放射能の危険が知らされているのだろうか。建設中の核物質貯蔵庫だろうか。そこから原発の石棺はすぐだった。係員に案内されて展望所なる建物に入る。

○この説明員も若い女性で、その説明によれば:

○現在の石棺は不十分なものであり中に残った核燃料による危険をおさめる為国際プロジェクトによる作業中であり新しい石棺を2008年までにつくる。

○現在の石棺の中はガンマー線が数千レントゲンであり致死量の500レントゲンをはるかに超えてスタッフは中に入れないこと。

○石棺にひびが入って水が入るとどうなるか分からない。炉心の下に空気、水があってもいけない。

○この部屋は毎日除染作業を行っている。

### チェルノブイリの石棺

しかし、室内にもかかわらず検知器はこれまで最高の4.66を表示していた。

ここで働くスタッフは毎日内部被曝

計を見ているとのことだが、若い女性にこのような危険な場所で働かせることに異常さをおぼえた。

このように封鎖された原発を説明する女性、至近距離で働く労働者、4000人の専門家達を見て、あるいは、「チェルノブイリの危険は過ぎ去ったもの」と思つかもされない。封鎖された石棺と周辺の景色はどこにでもある見慣れたものでしかないからだ。その風景にひそむ危険さは計測器がなければ実感しにくい。ここでは事故後の今も人間が放射能被曝から逃れられず、人間の使い捨てが行われている。

### 廃墟の町プリピャチ

その石棺から数キロの樹林をバスが抜けると、そこはかつて5万人の人口のあったプリピャチの町が全くの無人の廃墟と化してあった。

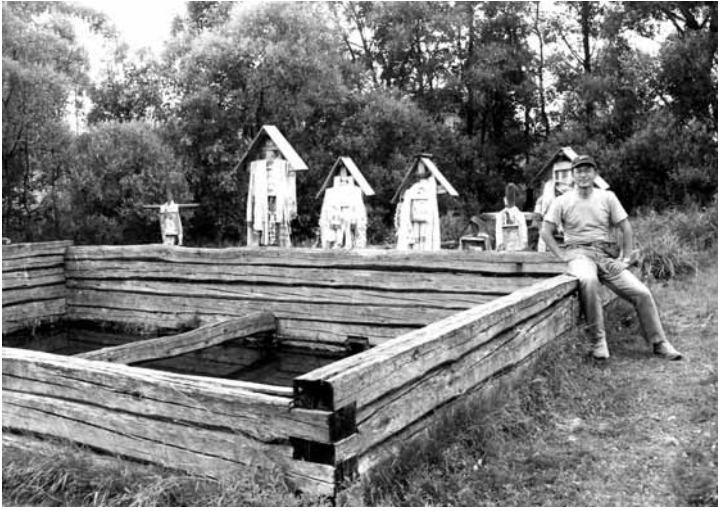
遊園地の観覧車が賑やかなりし日をしのばせる。この町の人々は事故後ようやく36時間過ぎて、森に2、3日疎開する」と言われてバスに乗せられて町を出たまま帰れなかったという。そこには1万7千人の子どもたちが居たという。その子どもは今どうしているの

だろう。

プリピヤチの廃墟から引き返す時、遠くに再び石棺が見えてきた。その手前はずうつと見渡す限りの緑の樹林であった。樹林の中に埋もれそうに石棺がポツンと見えた。このあたりの空気は下関あたりよりよほどきれいだと思う。

どこまでも続く赤松や白樺、ポプラの林、赤松には松茸ができる。空気のきれいな所でないといと赤松も松茸も決して育たないのだ。

すっかり放射能に汚染され今も危険な放射能を出し続けているチェルノブイリ周辺。し



今もきれいな水が湧き出るブジシチェ村の泉

かし、植物はその勢いを決して弱めずに青々と茂っているのだ。

原発の消火作業や、石棺づくりに60数万人が動員され、すでに15万人が死亡したと聞いた。そして今も子どもたちは白血球や甲状腺ガンなどの苦しみと恐怖に脅かされている。原子力発電は人間を放射能の使い捨てにすることを前提にしてしか成立しない。

よく「クリーンエネルギー」と宣伝するが無色透明で臭わないという放射能の一面だけを語る欺瞞の言葉でしかない。

7月27日、日本で地震があつたらしいと「アレクセイと泉」のブジシチェ村に着いてから聞いた。世界のニュースになる位の大地震は日本のどこでと皆が心配した。

その時、52基の原発を持つ日本のことが心配になった。外国から見ても日本はいつ大震災や原発の事故が起きてもおかしくない不安な国と見えるのではないか。ちょうど地方に住む私たちが東京大震災を心配するように思っているのだろう。危険な国、日本を実感した。「アレクセイと泉」に引き寄せられてそんな答えをもらったようだ。

原爆を落とされないと戦争をやめようとしなかった日本、原発がどこかで事故を起こさないと原発を止められないのだろうか。

## ブラジル、ジャカラダ農場のカルロスさんのこと



チェルノブイリ支援コーヒーでお馴染みのカルロス・フェルナンデス・フランコさんが去る7月4日、病気のためお亡くなりになりました。

カルロスさんはブラジル有機コーヒー栽培のパイオニアとして、有機農業の普及に尽力されただけでなく、貧困に苦しむブラジルにおいてストリートチルドレンや子どもがいる未婚の女性たちへの支援活動を行っていました。

チェルノブイリの被害を受けた子どもたちについても強い問題意識を持ち、作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」のポルトガル語版の発行に際しては、翻訳者を紹介して下さいなど、実質的な協力をして頂きました。

ジャカラダ農場で栽培されたコーヒーが、チェルノブイリ支援コーヒーとして販売され、多くの方々に愛されていることを、カルロスさんは大変、喜んでおりました。

カルロスさんの取り組みの根底には、地球との、そして人とのつながりを大切にしたいという深い想いがありました。チェルノブイリ支援運動・九州では、そのカルロスさんの想いを忘れることなく、これからもこの取り組みを続けていきたいと考えております。

謹んでカルロスさんのご冥福をお祈りしたいと想います。

# 皆さんの募金をありがとうございました。

(敬称略・順不同)

牟田美幸 土持秀男・由利子 竹内サキ子 宮崎優子  
 山内町子 めぐみ保育園職員一同 森満子 福永弘恵  
 かこしま市民環境会議 大橋美幸 本岡眞利子 シモム  
 ラ医院 古賀尚子 中村幸枝 田端美和子 貞池和恵  
 田中香代子 高島悦子 勝連夕子 深堀ミチ子 谷口美  
 江 平山俊洋 上野由美 椛島一郎 大内裕里 大場満  
 稲月道子 大坪玲子 木下弥生 医療法人くまがい産  
 婦人科 入江種文 花田信子 さとこの日記の広場 池  
 田みどり 村上和代 木下カズ子 川原美穂 納富育代  
 室屋芳乃 富田明美 永江之子 中村文子 谷口伊佐  
 久米久美子 グリーンコープかごしま一湊班 立石千  
 絵 サトウ矯正歯科クリニック 佐藤マリ子 荒木潔枝  
 田村直子 小川美沙子 味村真知子 前田博子 井上  
 従昭 野口初五郎 奥平篤子 碩京子 田所純子 田中  
 賢二 鈴木弘子 野村幸子 平井勝美 船越あつこ 西  
 尾禮子 グリーンコープ生活共同組合ひろしま 江藤千  
 穂子 日置美穂子 佐藤一司 川崎君子 山部久美子  
 中牟田峰子 片山まゆみ 伊藤綾 井原正子 柴田徳子  
 永山セツ 野口えみ子 平山拓治 平田美恵子 中  
 島美代子 大屋さだ江 石津葉子 沢野和子 竹永茂  
 美 沢田愛子 梅地佳代子 木下るみ 吉川直子 園川  
 さおり 山田美枝子 桜井恵美子 城戸洋子 藤井幸子  
 後藤千秋 橋口日出夫 桂由記子 和田政子 藤原孝  
 子 寺園葦子 前田・渡辺・中西・沖 田中敏子 首藤  
 展子 秦素子 中村みどり 岡恵子 坂口紀子 古賀  
 敬子 神祐子 吉元京子 水木啓詩 瀬崎枝美 堺美穂  
 岡田美江 金只律子 たかはし小児科医院 宇都宮裕  
 子 鳥原良子 須賀富美子 尾方みほ 田中直人 永野  
 隆文 佐藤節江 金山涼子 小野幸子 樋口まさき 馬  
 場州賀子 永田久美子 松崎朗栄 古川伊津雄・美恵  
 子 西島治香 高山幸子 柴山順子 坂本千鶴 若松道  
 子 大賀京子 荒木和代 淵田三輝 落石久子 松  
 井香代 村上裕子 成松真由美 重藤響子 外尾菜穂子  
 一ノ瀬広江 未廣治江 大園広子 小出としえ  
 大山静香 緒方ミサ子 福本智子 本城紀代子 武田佐  
 俊 南祐子 内田ケサエ 吉岡敦子 森永紀代子 渡  
 辺稲子 西貴恵 吾郷成子 大中百合 川端雅美 ア  
 イランドツアーセンター 廣底裕子 長崎県職員組合女  
 性部 佐々木郁江 川西ケイ子 (角) 鞍手総合医学社熊井

鶴子 半田政彦・英子 藤田順子 中村照子 園田  
 敬子 貴田典子 プレンティオフハート森田恵美子 渡  
 辺真志子 古賀えみ子 塩田万希世 中村順子 福代美  
 鈴 岩瀬サクコ 関いづみ 原岡ひとみ 森脇けい子  
 岡由起子 早川もと子 進藤輝幸 志村信子 田嶋美  
 奈子 曾我正彦・則子 西井久芳 信畑真紀 吉田純枝  
 森川由紀子 宮本カズ子 井上由美子 福迫愛梨  
 楠敬子 高田洋子 有限会社オイタリスクマネジ  
 メント 宮本京子 井上洋子 佐藤由美 野中孝子  
 佐藤和恵 島田まゆみ チェルノブイリ医療支援の会  
 (宮路) 上鶴聡子 大瀬美都子 堀川浩一 まいに  
 ち生活協同組合西部支所代表新田悦郎 袖木中学校 本  
 多いづみ 小倉南ロータリークラブ 江越知佳子 味  
 の素社会貢献基金 常富泰弘 西村百合子 グリーン  
 コープ生活協同組合くまもと 林昌子 跡部秀之 古賀  
 尚子 澤田和子 チェルノブイリ友の会伏尾台 菊池順  
 子 三本和 淵レディスクリニック 水車むら農園 小  
 田ゆかり 松本弘子 筑豊互助会 グリーンコープ生活  
 協同組合おおい 岩本久美子 じゃがいものおうち  
 堀之内真吾 舞鶴幼稚園 宮崎聖三一教会 伝承館 竹  
 熊千榮子 上原康央 NPO法人屋久島エコ・フェスタ  
 グループ・モモ 柳案寛

(二〇〇三年五月一日より七月三十一日までの募金です。  
 通信にお名前を紹介することを許可頂いた方、ならび  
 に「のぞみ21」民芸品、チェルノブイリ支援コーヒーの  
 購入を通して活動を支援下さった方のみ、掲載していま  
 す。)

三千円コース 八一七、〇〇〇円(二七一〇)  
 五千円コース 二七五、〇〇〇円(五四〇)  
 一万円コース 三六二、〇〇〇円(三三〇)  
 雪だるま2号カンパ 三〇六、〇〇〇円(九六〇)  
 その他カンパ 三九五、五三三円(八五〇)  
 (分割払いの方もいるので、数字は割り切れていま  
 せん。)  
 合計 二、一五五、五四六円

「プレストにおける第3回検診」には、  
 「通販生活」読者の皆様より、医薬品および専門家二名  
 の派遣費として、二九三、二七八円のカンパ  
 ・財団法人福岡県国際交流協会より「福岡県国際協力人  
 税育成」助成金として専門家派遣費二〇〇〇〇円の補助  
 金  
 をいただきました。

## 募金者からのメッセージ 一部抜粋

息永い活動がこれからも続きますように。 体に安全

でおいしいコーヒーや紅茶を飲んで、しかも支援出来て  
 こんなにいいことはありません。緑地に白のクロスス  
 テッチと白バイキングのなべつかみ、かけて飾ってい  
 ます。目を離してはいけない事が表面的な事に流されてい  
 ることに危惧しています。このように継続的なお知らせ  
 に驚く事しきり。悲しく息がつかまる思いがします。苦し  
 い中頑張っておられる方がた支援に奔走して下さる方々  
 に少しでもお役に立てればと思っています。 神田香織  
 さんの「チェルノブイリの祈り」に取り組みます。 負  
 けるな、子供達、みんながいるよ。 世界中の子どもの  
 笑顔のために！アレクセイと泉の北九州上映を強く望み  
 ます。 大学生二人に仕送り中の貧者の一灯です。  
 「チェルノブイリのたんぼぼ」を読んで涙があふれてき  
 ました。世界中の子ども達が元気で大きくなれますよう  
 に。 ベラルーシの子供達が少しでも幸せになりますよ  
 うに。 少ないですが、原発反対!! 正しく使って下さ  
 い。 政治、宗教一切関係なく、甲状腺という同じ病気  
 の人々が気の毒です。私も決して豊かでなく大変です  
 が、少しでもお役にたてて下さい。税金対策で他の所に  
 もやってきませんでした。不純な動機は一切無用！甲状  
 腺の人はつらいでしょうね。ほんとうの平和がおとず  
 れますように。これ以上放射能の被害者を出さないた  
 めに あきらめないで！活動されている皆様には頭が  
 下がります。 おどらされない姿がスゴイ!! 子供たち  
 の笑顔の為にがんばろう。なんだか習慣になりました。  
 新しい雪だるま号のために少しでも足しになれば。  
 チェルノブイリの子どものために頑張ってください。 ひ  
 とりでも多くの人に届きますように。 お手紙もありが  
 とうございました。私は、今まで少しずついるいるな団  
 体への寄付もしてみました。良い商品をお売ることでの  
 支援が皆さんの人への長いスパンでできると思えました。